



TOPICS

江南文化財センター開館15周年事業「小学生が描く熊谷の古代」

令和5年10月から令和6年2月にかけて、江南文化財センター開館15周年を記念して、市内の小学生を対象に「熊谷の古代」をテーマとした絵画を募集したところ、応募総数149点と多数の応募がありました。厳正なる審査の結果、三浦英愛さん（熊谷西小）、楊孝愛さん（熊谷西小）、岡部心春さん（江南南小）、鈴木佐英さん（妻沼南小）の4名の作品が特選に選ばれ、当センターホールの床面装飾のデザインとして採用されました。

令和6年3月28日（木）には、その完成を記念して、表彰式・除幕式が行われ、審査を務めた野原晃教育長から、特選に選ばれた4名の児童に表彰状と記念品が贈呈されました。

また、同年4月から5月にかけて、熊谷駅ティアラ3階アズイースト区画の雑貨店「いってんべーす。by カールヴァン」様の御厚意により、同店内のギャラリースペースにて、応募の全作品の展示会を開催しました。多くの応募があったことから、展示会は全部で7回に分けて開催され、子供たちが思いのままに描いた、個性豊かで魅力あふれる作品を多くの方に御鑑賞いただきました。

なお、御応募いただいた全作品は、「熊谷デジタルミュージアム」において公開中ですので、ぜひ御覧ください。（山川愛）



床面装飾を前に特選受賞者と野原教育長

Sketchfab 運用開始

令和6年3月から、「Sketchfab」（スケッチファブ）において、市内に所在する文化財の3D画像の公開を始めました。

「Sketchfab」は、3D（立体）・VR（仮想現実）・AR（拡張現実）コンテンツを公開・共有するプラットフォーム（基盤）で、特定のソフトウェアを必要とせず、web上でそれらのコンテンツを360度回転させて見ることができます。

現在、土器・埴輪・石造物など23モデルを公開しています。

今後、順次追加していく予定です。下記URLまたは右記QRコードから、江南文化財センター公式ページを御覧ください。

URL：<https://sketchfab.com/odoruhaniwa>
(森田)



熊谷市立江南文化財センター【公式】 埼玉県熊谷市千代329

EDIT PROFILE 0 Followers 2 Following

Sketchfab

熊谷市立江南文化財センターでは、文化財の3D画像をSketchfabで発信しています。

波乗り弁財天	府侍人物埴輪	府侍人物埴輪	穴薬師

市内遺跡発掘情報

まげちにしうら

万吉西浦遺跡発掘調査

令和6年5月9日(木)から6月25日(火)にかけて、万吉地内に所在する万吉西浦遺跡の発掘調査を実施しました。

調査箇所は、万吉西浦遺跡範囲中央やや西の荒川沖積地の微高地に位置し、調査面積は約100㎡です。

検出された遺構は、縄文時代の土壌2基、屋外埋甕1基、平安時代の掘立柱建物跡1棟、近世の溝跡1条です。出土遺物は、縄文土器・石器が出土しています。

縄文時代の遺構は、過去の調査では、集石土壌、屋外埋甕が確認され、今回の調査でも土壌、屋外埋甕が確認されました。住居跡は確認されませんでした。調査区域外の微高地上に存在することが推測され、このことは縄文時代中期末の集落が、台地部の大規模な集落から、低地部の小規模な集落に移行する過程を示すものとして、貴重な資料を得ることができました。(森田)



縄文時代中期末の屋外埋甕

上之区画整理地内遺跡発掘調査

今年度の上之土地区画整理地内の発掘調査は前中西遺跡と諏訪木遺跡の2遺跡で実施しています。

前中西遺跡は、道路予定地で調査面積が60㎡と狭小ですが、調査の結果、弥生時代中期末の方形周溝墓の一部や、平安時代の掘立柱建物跡など、狭い範囲に複数の時代の痕跡を確認することができました。

諏訪木遺跡も道路予定地で、調査面積は約970㎡です。こちらは遺構のほぼすべてが、近世から近代にわたるもので、堀跡を主体とし、そこから枝分かれした水路跡が複数検出されました。

この堀跡は明治初期の迅速測図にも記されており、覆土内には天明3(1783)年の浅間山の噴火による火山灰も確認できることから、それ以前に造られたことが分かりました。

この付近は湧水が豊富で、その湧水には噴砂が伴っていたことから、大半は砂に埋もれた状態での検出で、これらの遺構からは、その時期に廃棄したと思われる陶磁器などが多量に検出されています。(腰塚)



前中西遺跡出土弥生土器



諏訪木遺跡出土近世陶磁器

連載 くまがやの古墳群

ふなき

③0 船木古墳群 —かつてあった東平台地先端部に造営された古墳群?—

大里地区の青山、荒川右岸の江南台地東南端にかつてあった、荒川の低地に面した標高30m前後を測る東平台地において、平成2年度、船木遺跡の発掘調査が行われました。この調査の際に、古墳時代後期に造られたと考えられる円墳1基が検出されました。この古墳を含む古墳群を、仮に船木古墳群と呼称します。なお、この古墳は、調査後台地全体が削平され消滅しています。

ちなみに、かつて「円山の谷」と呼ばれていた谷を挟んで本古墳群の西には、古墳時代後期の円山古墳群(本連載②⑤)が所在します。

円墳1基は、東に荒川を臨む台地縁辺部に立地し、周溝のみが検出され、その周溝もおおよそ半分強が遺存していたにすぎず、南側は台地自体が既に削平を受けていたため、失われていました。またこの時期の古墳は、大抵群を成して形成されることから、失われた台地南側には、ほかにも古墳があった可能性が推定されます。(吉野)



船木遺跡発掘調査区全景
(東から、矢印が古墳)



検出された円墳全景(北西から)

◇夏休み企画「あなたも古代人」

7月24日(水)から30日(火)にかけて、主に小学生を対象とした夏休み企画「あなたも古代人!!」2024を実施しました。

この企画は、例年人気のある体験事業で、今年は総勢266名の親子が参加してくれました。体験メニューは「まが玉作り」と「踊るはにわづくり」。できあがった作品は、どれひとつとして同じものはなく、個性豊かな作品がたくさんできました。

そして、一生懸命制作しながら、「昔の人は便利な道具もなくて、作るのは大変だっただろうな」と、参加した皆さんが古代の人々の暮らしに思いを馳せていました。(茂木)



「踊るはにわづくり」作品

◇令和6年度「埼玉の考古おひろめ展 地中からのメッセージ」

令和6年7月13日(土)から9月1日(日)まで、埼玉県立さきたま史跡の博物館において「埼玉の考古おひろめ展 地中からのメッセージ」が開催されました。今回本市からは、弥生時代の遺跡として前中西遺跡の出土遺物(土器、石器、本遺跡初の出土となった磨製石剣など)を出品しました。

また、開催中の7月28日(日)には、今回展示された各時代の遺跡について報告する「第53回遺跡発掘調査報告会」が開催されました。本報告会は、コロナ禍以来5年ぶりの開催でしたが、大勢の方々の参加があり、皆さん熱心に、報告者の話に聞き入っていました。(松田)



前中西遺跡出土遺物の展示

◇市政宅配講座「わくわく土器ドキ石器講座」

令和6年8月4日(日)、熊谷駅ティアラ3階アズイースト区画の「熊谷さくら座」において、当センターの体験講座「土器の拓本づくり」を実施し、夏休みということで、多くの親子連れの方々に御参加いただきました。参加者の皆さんは、色鉛筆を使用し、自分の好みの色で、本物の土器片の文様を画仙紙に写し取りました。できあがった拓本は、その場で台紙に貼り付け、パウチ加工して葉としてお持ち帰りいただきました。

また、会場では、同時に市指定無形民俗文化財のパネル展示及び熊谷駅駅弁掛け紙展示を行い、皆さん興味深そうに展示を御覧になっていました。(山川愛)



「熊谷さくら座」体験講座と展示

【文化財探訪－わが街熊谷遺跡巡り－】

上前原遺跡と上北浦遺跡の調査成果報告展 ー対照的な二つの縄文時代集落跡ー
江南文化財センターにおいて、令和6年10月31日(木)までホール展示をしています。

上前原遺跡は、江南地区千代に所在する縄文時代中期後半～後期初頭の集落跡で、北に広がる低地を見渡す江南台地の北縁に立地します。これに対して、上北浦遺跡は、妻沼地区江波に所在する縄文時代後期後葉～晩期の集落跡で、利根川に近く、氾濫の影響を受けやすい妻沼低地の自然堤防上に立地します。

この集落は、縄文時代中期末に、それまでの温暖な気候が寒冷化し、台地での大規模な集落形態が維持できなくなり、寒冷化に対応した低地での小規模な集落形態に変化したことによるものと考えられています。

同じ縄文時代であっても、時期によって異なる二つの集落跡の特徴を御覧ください。(山川守・大野)



上北浦遺跡出土「岩版」

文化財コラム 中山道の旅 その1

中山道は、成立が慶長7年（1602）、完成が元禄7年（1694）とされ、江戸日本橋を起点に京都三条大橋を結ぶ街道です。その道筋は、古代の官道「東山道」とほぼ同じにしますが、埼玉県内の中山道は新たに整備されました。

熊谷市域においては、鴻巣市境の久下・荒川土手から深谷市境の新堀までのルートで、距離にして約14.5kmです。この市域内のルートですが、市内外において認知度が意外と低いのが現状です。そこで、実際にルートを辿ってみましたので、見どころの紹介を通じて中山道の魅力を伝えたいと思います。

先ず、鴻巣市境の鴻巣市側には、鴻巣市指定民俗資料「権八地蔵とその物語」の権八地蔵が祀られています。この権八地蔵ですが、熊谷市久下にも祀られており、同じく中山道沿いにありますので、由緒等についてはそちらへ譲ります。さて、本市に入りますと、中山道は荒川の堤防を通ります。この付近は当時「久下の長土手」と呼ばれ、途中で民家はなく、追いはぎが出没する寂しい街道であったといわれます。現在は堤防の北側に大曲集落があり、この集落の北側を通るのが本来の道筋（旧道）ですが、途中が廃道となっているため、左手の道（新道）を進みます。その先、途中左手に「決潰の跡」碑（1947年のカスリーン台風による堤防決壊地）を見ながら進みますと、市境から約1.2kmのところ、右手の堤防下に「稻荷神社」の鳥居と小さな社殿、一本の松が見えてきます。ここが久下「一里塚跡」です。ここへは急な堤防斜面を降りていくことになりませんが説明板も備えられており、すぐ西側の堤防中腹には、天保12年（1841）に造立の「馬頭観世音」の石塔もあります。

今回は、紙面の都合もありここで筆を置きますが、中山道の旅は次回へつづきます。（吉野）



鴻巣市「権八地蔵」が祀られているお堂



久下「一里塚跡」（稻荷神社）

【マニアックな文化財メモ - 江南文化財センター所蔵資料の出張 -】

10月に群馬県立歴史博物館で開催される企画展「弥生人は二度死ぬ」では、昭和62年の発掘調査により出土した横間栗遺跡（熊谷市西別府）の土器、人骨を貸出します（埼玉県指定有形文化財）。横間栗遺跡では13基の再葬墓と71基の土坑が検出され、弥生時代前期から中期にかけての墓域であることがわかりました。

再葬墓は、一度埋葬された遺体を白骨化してから取り出し、壺形や甕形の土器に納めて再び埋葬したと考えられています。

このような葬法は東日本に発達し、県内では県北部にみられます。発掘調査によって全容が確認されたものは数が少なく、横間栗遺跡のようにまとまって出土した例はありません。（小島）



横間栗遺跡
第1号再葬墓出土土器

編集後記

当センターが開館して昨年1月30日で15年が経ちました。これも多くの方々の御指導・御協力の賜物であり、15年という節目を迎えることが出来ましたこと、感謝申し上げます。

この度、その節目の記念事業として、「熊谷の古代」と題する絵を募集したところ、諳らずも、熊谷を代表する埴輪「踊る人々」「短甲の武人」の絵を描いた4名が特選に選ばれ、当センター玄関ホール床面装飾として採用されました。来館の際はどうぞ御覧ください。

今後とも、熊谷市の文化財を、様々な媒体で情報発信していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。（森田）



発行：令和6年9月17日（2024/9/17）

熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係）

〒360-0107 埼玉県熊谷市千代329番地

Tel：048-536-5062 FAX：048-536-4575 Mail：c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp